



平成30年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月14日

上場会社名 株式会社インタートレード 上場取引所 東
 コード番号 3747 URL http://www.itrade.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾崎 孝博
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部門長 (氏名) 小笠原 功二 (TEL) 03-4540-3002
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 ()

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第1四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第1四半期	473	△6.9	△67	—	△67	—	△68	—
29年9月期第1四半期	508	△13.9	△89	—	△89	—	△90	—

(注) 包括利益 30年9月期第1四半期 △68百万円(—%) 29年9月期第1四半期 △85百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第1四半期	△9.58	—
29年9月期第1四半期	△12.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第1四半期	1,693	1,331	78.6
29年9月期	1,784	1,400	78.5

(参考) 自己資本 30年9月期第1四半期 1,331百万円 29年9月期 1,400百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年9月期	—	—	—	—	—
30年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,400	19.0	20	—	17	—	12	—	1.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年9月期1Q	7,444,800株	29年9月期	7,444,800株
② 期末自己株式数	30年9月期1Q	259,200株	29年9月期	259,200株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年9月期1Q	7,185,600株	29年9月期1Q	7,185,600株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループの事業セグメントは、証券ディーリングシステム、外国為替証拠金取引システム、取引所外取引システム等の開発及び保守を中心とする「金融ソリューション事業」、ITサポート及びグループ経営管理ソリューションシステムの開発及び販売を中心とする「ビジネスソリューション事業」、健康食品や化粧品等の開発及び販売を中心とする「ヘルスケア事業」及び「投資教育事業（平成29年10月1日付で自己資金運用事業から名称変更）」の4つです。

当第1四半期連結累計期間（以下、当第1四半期）の当社グループの連結経営成績は次の表のとおりです。

	平成29年9月期 (前第1四半期)		平成30年9月期 (当第1四半期)		対前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	
売上高	508	100.0	473	100.0	93.1
金融ソリューション事業	381	75.0	349	73.8	91.6
ビジネスソリューション事業	41	8.2	51	10.9	124.2
ヘルスケア事業	85	16.7	71	15.1	83.9
投資教育事業	0	0.1	0	0.2	220.1
営業損失(△)	△89	—	△67	—	—
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△90	—	△68	—	—

(注) 各事業の売上高は、セグメント間の内部取引を含んでいません。

当第1四半期の業績はビジネスソリューション事業において増収となったものの、主力の金融ソリューション事業及びヘルスケア事業の減収を補うには至らず、連結売上高は前年同期に比べて35百万円減少し473百万円となりました。また利益面においても費用削減等の施策を行いました。売上高減少の影響により営業損失、親会社株主に帰属する四半期純損失はそれぞれ67百万円、68百万円となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりです。

なお、各事業の売上高には、セグメント間の内部取引を含んでいません。

(金融ソリューション事業)

金融ソリューション事業は、当社の事業です。

当第1四半期の経営成績は次のとおりです。

売上高 349百万円 (前年同期比 91.6%)
セグメント利益 82百万円 (前年同期比 102.9%)

<製品区分別>

	平成29年9月期 (前第1四半期)		平成30年9月期 (当第1四半期)		対前年同期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
証券ディーリングシステム	263	69.0	224	64.3	85.4
取引所端末	70	18.4	69	19.9	99.1
外国為替証拠金システム	26	6.8	32	9.4	126.3
取引所関連システム	13	3.6	13	3.9	100.4
その他	8	2.2	8	2.5	100.0
合計	381	100.0	349	100.0	91.6

当第1四半期においては、前年同期に比べて外国為替証拠金取引システムの売上増加があったものの、全体では売上高が8.4%減少する結果となりました。証券ディーリングシステムの顧客の解約による影響です。

前期より引き続き、費用削減に関する施策を行っていますが、売上高の減少分を補うには至りませんでした。

(ビジネスソリューション事業)

ビジネスソリューション事業は、当社及び株式会社ビーエス・ジェイの事業です。

当第1四半期の経営成績は次のとおりです。

売上高	51百万円 (前年同期比 124.2%)
セグメント損失	6百万円 (前年同期は16百万円のセグメント損失)

引き続き自社開発の経営統合管理プラットフォーム『GroupMAN@IT e²』の販売に注力し、営業活動を展開しております。当第1四半期の売上高は前年同期より24.2%増加し、セグメント損失も改善しました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業は、当社、株式会社らぼおぐ及び株式会社健康プラザパルの事業です。

当第1四半期の経営成績は次のとおりです。

売上高	71百万円 (前年同期比 83.9%)
セグメント損失	63百万円 (前年同期は66百万円のセグメント損失)

当社が生産する『ITはなびらたけ』の研究結果が評価され一般社団法人日本スーパーフード協会から素材としては日本初のスーパーフードの認定を受け、雑誌「日経トレンド」においても2018年の注目素材として紹介されるなど、知名度向上において成果がありました。

損益面においては『ITはなびらたけ』の研究に伴う研究開発費が前年同期より減少した結果、セグメント損失が若干改善しました。

なお、分散していた経営資源を統合することで販売活動の効率性と管理業務の効率化による間接費削減を目的に、株式会社健康プラザパルを存続会社として2018年1月1日付で株式会社らぼおぐと合併し、商号を株式会社インタートレードヘルスケアに変更します。第2四半期以降では、大手百貨店との商談も進捗しており、ハナビラタケ製品を一般消費者に届きやすい販路に流通させると共に、大手企業へのOEM供給などの様々な施策を基に売上を拡大していきます。

(投資教育事業)

投資教育事業は、株式会社トレーデックスの事業です。

当第1四半期の経営成績は次のとおりです。

売上高	0百万円 (前年同期比 220.1%)
セグメント損失	8百万円 (前年同期は10百万円のセグメント損失)

投資教育事業として、個人投資家向け投資セミナーの開催やTOKYOMXで「TRADEX マーケット・アングル」の番組提供を行っています。当第1四半期は、8百万円のセグメント損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期末の総資産額（負債及び純資産の合計額）は、前連結会計年度末に比べ91百万円減少し、1,693百万円となりました。自己資本比率は78.6%、当座比率（当座資産÷流動負債、短期的安全性の指標）は425.5%であり、安定性の高い財務体質となっています。

（資産）

総資産合計1,693百万円のうち、現金及び預金が1,097百万円（構成比64.8%）を占めています。

その他の主な資産は、受取手形及び売掛金180百万円（構成比10.6%）、棚卸資産（商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品）63百万円（構成比3.7%）、投資有価証券81百万円（構成比4.8%）となっています。

（負債）

負債合計361百万円のうち、短期借入金、1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の合計が211百万円（負債及び純資産に対する構成比12.5%）を占めています。

（純資産）

純資産合計1,331百万円の内訳は、資本金1,478百万円、資本剰余金794百万円、利益剰余金△845百万円、自己株式△95百万円等となっています。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは金融市場の動向の影響を受ける事業環境にありますが、現時点では平成29年9月期決算短信記載の連結業績予想で想定したとおりに進捗しており、連結業績予想の変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

1. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,177,588	1,097,274
受取手形及び売掛金	195,951	180,284
商品及び製品	38,582	32,001
仕掛品	1,305	22,348
原材料及び貯蔵品	9,569	8,801
その他	96,286	90,475
貸倒引当金	△91	△70
流動資産合計	1,519,192	1,431,116
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	14,718	16,457
機械装置及び運搬具(純額)	—	1,126
工具、器具及び備品(純額)	35,185	31,736
有形固定資産合計	49,904	49,320
無形固定資産		
ソフトウェア	9,460	7,930
その他	1,247	1,247
無形固定資産合計	10,708	9,178
投資その他の資産		
投資有価証券	81,577	81,577
その他	135,401	134,438
貸倒引当金	△11,851	△11,851
投資その他の資産合計	205,126	204,163
固定資産合計	265,739	262,661
資産合計	1,784,931	1,693,778

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	58,936	70,489
短期借入金	101,400	100,000
1年内返済予定の長期借入金	57,360	52,526
リース債務	1,048	711
未払法人税等	1,346	5,789
その他	90,021	70,727
流動負債合計	310,111	300,243
固定負債		
長期借入金	71,153	58,683
退職給付に係る負債	2,852	2,884
固定負債合計	74,005	61,567
負債合計	384,117	361,810
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,478,433	1,478,433
資本剰余金	794,264	794,264
利益剰余金	△777,114	△845,936
自己株式	△95,031	△95,031
株主資本合計	1,400,552	1,331,729
新株予約権	262	237
純資産合計	1,400,814	1,331,967
負債純資産合計	1,784,931	1,693,778

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)
売上高	508,856	473,492
売上原価	370,511	331,936
売上総利益	138,344	141,556
販売費及び一般管理費	227,508	209,520
営業損失(△)	△89,163	△67,963
営業外収益		
受取利息	7	7
受取配当金	526	39
その他	115	793
営業外収益合計	649	840
営業外費用		
支払利息	838	579
その他	5	41
営業外費用合計	844	621
経常損失(△)	△89,357	△67,744
特別利益		
新株予約権戻入益	25	24
違約金収入	—	60
特別利益合計	25	84
税金等調整前四半期純損失(△)	△89,332	△67,659
法人税、住民税及び事業税	1,460	1,162
法人税等合計	1,460	1,162
四半期純損失(△)	△90,792	△68,822
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△90,792	△68,822

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成29年12月31日)
四半期純損失(△)	△90,792	△68,822
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,000	—
その他の包括利益合計	5,000	—
四半期包括利益	△85,792	△68,822
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△85,792	△68,822
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	金融ソリューション事業	ビジネスソリューション事業	ヘルスケア事業	投資教育事業			
売上高							
外部顧客への売上高	381,535	41,573	85,322	424	508,856	—	508,856
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	750	91	—	841	△841	—
計	381,535	42,323	85,413	424	509,697	△841	508,856
セグメント利益又は損失 (△)	80,410	△16,639	△66,163	△10,498	△12,891	△76,272	△89,163

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△76,272千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	金融ソリューション事業	ビジネスソリューション事業	ヘルスケア事業	投資教育事業			
売上高							
外部顧客への売上高	349,328	51,622	71,606	935	473,492	—	473,492
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	750	64	—	814	△814	—
計	349,328	52,372	71,670	935	474,307	△814	473,492
セグメント利益又は損失 (△)	82,738	△6,306	△63,882	△8,589	3,959	△71,923	△67,963

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△71,923千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来「自己資金運用事業」としていた報告セグメントを第1四半期連結累計期間より「投資教育事業」に名称変更しております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間につきましても、当第1四半期連結累計期間と同様に「投資教育事業」と記載しております。

なお、セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。